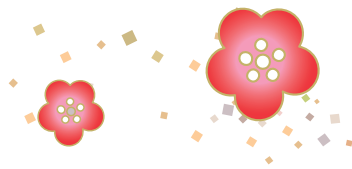


新春特集



今年はこちら！ 2025年の景気見通し

～県内の企業経営者へのアンケート調査より～

昨年は、新型コロナウイルスの影響が緩和され、様々な行事・イベントが復活したことや、賃上げの継続など前向きな話題が聞こえる年になった。一方、海外では、ウクライナや中東情勢の長期化・悪化による世界経済の減速が懸念され、欧米諸国・東アジアの政情不安や新政権を迎える米国の政策動向の影響も懸念される。

県内経済は、賃上げの継続により個人消費は堅調に推移しているものの、物価上昇の影響による実質賃金の伸び悩みもみられ、全体的に弱含みで推移している。

新年にあたり当研究所では今年も「新年景気見通しアンケート」を福島県内主要企業の皆さまのご協力の下実施し、75社からご回答をいただいた。アンケートにご協力いただきました企業経営者の皆さまには誌面をもって御礼を申し上げますとともに、益々のご発展を祈念申し上げます。

※アンケート実施時期：2024年10月

1. 売上・生産の見通し

Q. 2025年の貴社の「売上・生産見通し」は、2024年と比べてどのように変わるとお考えですか？

～「好転する・やや好転する」が微増～

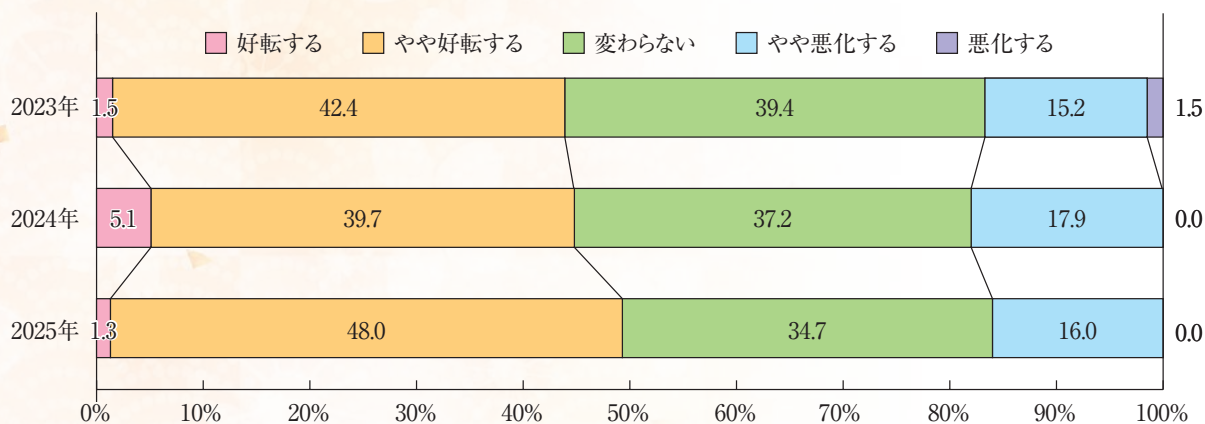
企業の「売上・生産見通し」は、「好転する・やや好転する」が49.3%（前回は+4.4ポイント）と微増し、「変わらない」34.7%（同+2.5ポイント）と「やや悪化する・悪化する」16.0%（同+1.9ポイント）は僅かに減少した（図表1、2）。

図表1 売上・生産の見通し

	2023年	2024年 (a)	2025年 (b)	前回は増減 (b)-(a)
好転する・やや好転する	43.9%	44.9%	49.3%	4.4ポイント
変わらない	39.4%	37.2%	34.7%	+2.5ポイント
やや悪化する・悪化する	16.7%	17.9%	16.0%	+1.9ポイント

「好転する・やや好転する」の理由は「受注増加・需要増加」が21社（前回は+5社）と最も多かった。「変わらない」の理由は「大きな変化なし」が19社（同+12社）と増加した。「やや悪化する・悪化する」の理由は、「需要減少」が3社で、次いで「原材料高騰」が2社と続いた（図表3）。

図表2 売上・生産の見通し



図表3 「売上・生産見通し」の理由

「好転・やや好転」の理由	件数	「変わらない」の理由	件数	「やや悪化・悪化」の理由	件数
受注増加・需要増加	21	大きな変化なし	19	需要減少	3
コスト改善策の効果	2	原材料高騰 (-)	2	原材料高騰	2
価格転嫁の浸透	2	景気悪化	1	供給不足	1
円安・インバウンド効果	2	物流の2024年問題	1	生産体制再構築	1
景気持ち直し	1			設備投資減少	1
生産性向上	1			事業再構築	1
コロナの収束(終息)	1			円安(-)	1
合計	30	合計	23	合計	10

※複数回答あり ※ (+) は好転、(-) は悪化の理由

2. 採算状況の見通し

Q. 2025年の貴社の「採算状況の見通し」は、2024年と比べてどのように変わるとお考えですか？

～「好転する・やや好転する」が5割弱へ増加、「やや悪化する・悪化する」は減少～

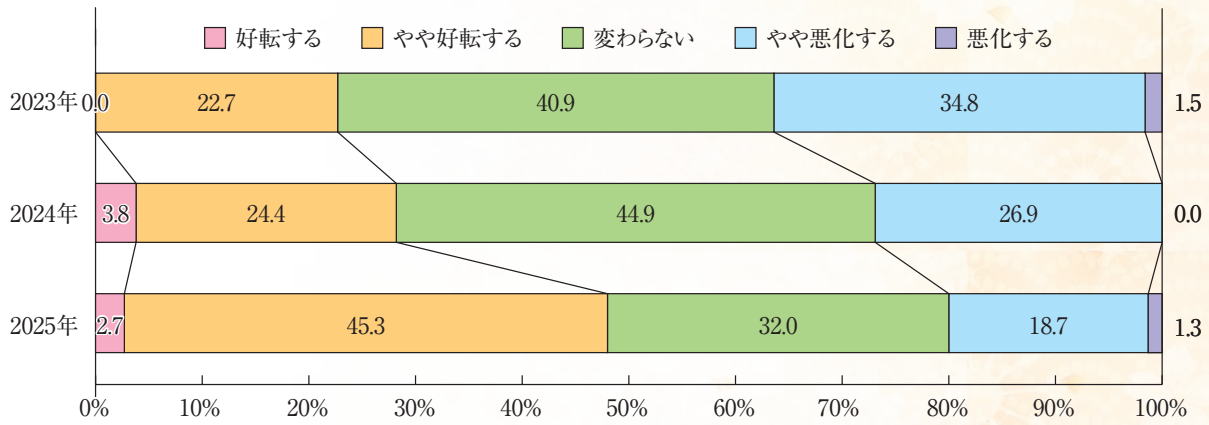
「好転する・やや好転する」48.0%（前回は+19.8割）と増加し、「変わらない」32.0%（同△12.9割）、「やや悪化する・悪化する」20.0%（同△6.9割）とそれぞれ減少した。（図表4、5）。「売上・生産見通し」との比較では、「好転する・やや好転する」と「変わらない」の合計と「やや悪化する・悪化する」の比率は同じような推移を示した。

図表4 採算状況の見通し

	2023年	2024年 (a)	2025年 (b)	前回は増減 (b)-(a)
好転する・やや好転する	22.7%	28.2%	48.0%	19.8割
変わらない	40.9%	44.9%	32.0%	△12.9割
やや悪化する・悪化する	36.4%	26.9%	20.0%	△6.9割

「好転する・やや好転する」の理由は、「受注増加・需要増加」が16社（前回は+5社）と最も多く、次いで「コスト改善策の効果」が7社（同+2社）と続いた。「変わらない」の理由は、「大きな変化なし」が12社と最も多く、次いで「固定費上昇懸念」が2社と続いた。「やや悪化する・悪化する」の理由は、「原材料高騰」が3社（同△8社）と「固定費増加」が3社（同△3社）と続いた（図表6）。

図表5 採算状況の見通し



図表6 「採算状況の見通し」理由

「好転・やや好転」の理由	件数	「変わらない」の理由	件数	「やや悪化・悪化」の理由	件数
受注増加・需要増加	16	大きな変化なし	12	原材料高騰	3
コスト改善策の効果	7	固定費上昇懸念	2	固定費増加	3
生産性向上	5	円安 (-)	1	受注低迷	2
価格転嫁の浸透	3	原材料高騰 (-)	1	円安 (-)	2
客単価上昇	2	景気悪化	1	供給不足	1
高価格帯へのシフト	1	人件費上昇	1	補助金終了	1
経営組織体制の見直し	1			生産体制再構築	1
				政局不安定	1
合計	35	合計	18	合計	14

※複数回答あり ※ (+) は好転、(-) は悪化の理由

3. 今年の戦略

Q. 2025年の「貴社の戦略」についてご記入ください。

今年の戦略は、「人材育成・社員教育」が16社と最も多く、次いで「新規事業の拡大」、「DX」が12社、「生産性向上」、「生産・管理体制の強化」が11社となっている（図表7）。

図表7 今年の戦略

項目	件数	項目	件数	項目	件数
人材育成・社員教育	16	人材確保・新卒採用の推進	9	品質管理の向上	3
新規事業の拡大	12	マーケット拡大	8	M&Aの推進	3
DX	12	設備投資	7	カーボンニュートラル	3
生産性向上	11	コストの適正化・低減	5	地域貢献・社会課題解決	2
生産・管理体制の強化	11	組織体制の見直し	4	業務改善	2
SDGs・ESG・CSR	10	物流システム構築	4		
事業・営業力・収益力強化	10	顧客満足度の向上	4	その他	6
商品開発・技術開発	9	働き方改革	3	合計	154

※複数回答あり

4. 最大関心事

Q. 2025年の「県内経済あるいは業界における最大関心事」についてご記入ください。

最大関心事は、「業界動向」24社（前回比+3社）が最も多く、次いで「為替動向」が18社（同+7社）、「雇用環境・賃金動向」が13社（同+7社）と続いている（図表8）。

図表8 最大の関心事

項目	件数	項目	件数	項目	件数
業界動向	24	景気動向	6	中国経済の動向	3
為替動向	18	エネルギー価格の動向	5	インバウンドの影響	3
雇用環境・賃金動向	13	政府の経済対策・支援策	5	地球温暖化・異常気象の影響	3
原材料高騰の影響	12	DXの動向	4	カーボンニュートラルの動向	3
人手不足	11	後継者問題	4	働き方改革	2
人口減少、高齢化	10	米国大統領選の影響	4	その他	4
地域経済の動向	9	金融政策	3	合計	146

※複数回答あり

5. おわりに

以上のとおり、本年アンケートにおいて各社の「売上・生産の見通し」では「好転する・やや好転する」が49.3%（前回比+4.4ポイント）と微増した。「採算状況の見通し」では「好転する・やや好転する」が48.0%（前回比+19.8ポイント）と増加した。「売上・生産の見通し」は前々回以降大きな変化がなかったが、「採算状況の見通し」は「好転する・やや好転する」が増加し、受注増加やコスト削減により収益向上に取り組む姿が窺われた。また、「変わらない」の中で「大きな変化なし」と回答した理由に「価格改定したが経費増加により相殺」、「受注増見込まれるが資材、人件費増加」、「新規案件活発化の一方で既存先減少」等が含まれており、不断の経営努力により収益確保を図る姿がみられた。

最後に、ご回答をいただいた企業の皆様に御礼を申し上げますとともに、当研究所の事業を通して多様な問題に取り組む皆様の一助になることを願い、本稿のまとめといたします。

（担当：黒田 昭弘）

